

令和8年度 第1回水分野のPPP／PFI(官民連携)推進会議

## 統括的な管理業務のあり方について 【共同研究内容の概要説明】

令和8年6月26日(金)  
(公財)日本下水道新技術機構  
研究第2部 副部長 岩本 直登



公益財団法人

下水道機構

日本下水道新技術機構

- 1 研究目的
- 2 研究経緯
- 3 研究方法と手順
- 4 技術資料（案）の説明
- 5 全体スケジュール
- 6 まとめ
- 7 下水道機構からのお知らせ

# 1. 研究目的

・「水の官民連携」をはじめとする官民連携事業は、複数業務から構成され、それらを適正かつ効率的に運営していくうえでは、事業者間調整、各種業務の一元管理等、統括的な管理業務が不可欠である。（図1-1参照）

・本研究では、多様な地方公共団体がウォーターPPP 等の官民連携事業を導入する際の参考となるように、包括的民間委託の実績を有する民間事業者18社と日本下水道新技術機構により、統括的な管理業務のあり方や導入時に検討すべき項目を解説することを目的とする。

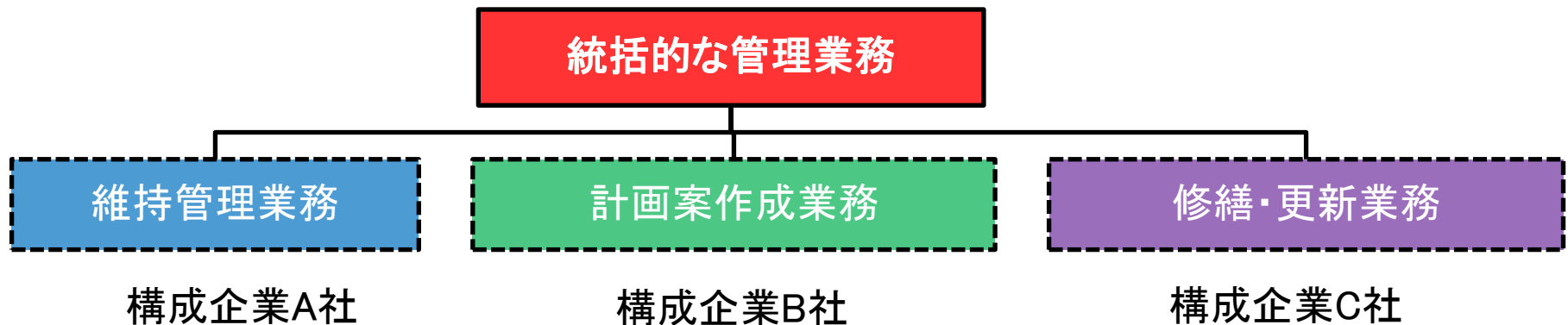
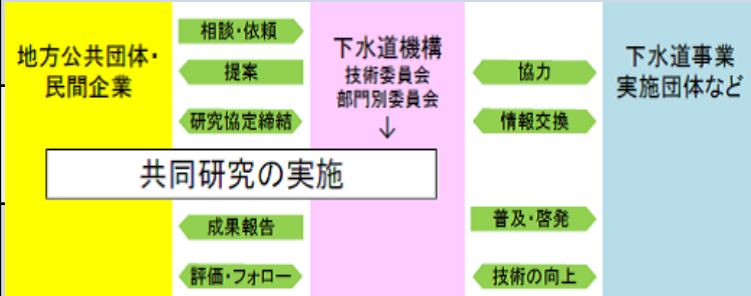


図1-1 複数業務の構成イメージ

# 2. 研究経緯

| 時 期                     | 概 要                  | 備 考                                                                                 |
|-------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 2025/2/28               | 本共同研究公募開始            |                                                                                     |
| 2025/2/28～<br>2025/3/21 | 本共同研究公募・選定           | 民間企業へ向け機構HPで公開                                                                      |
| 2025/7/23               | R7.第1回 管路技術共同研究委員会審議 |  |
| 2025/8/27               | R7.第1回 技術委員会審議       |                                                                                     |
| 2025/11/27              | R7.第2回 管路技術共同研究委員会審議 |                                                                                     |
| 2025/12/8               | R7.第2回 技術委員会審議       |                                                                                     |
| 2026/2/13               | R7.第3回 管路技術共同研究委員会審議 |                                                                                     |
| 2026/2/27               | R7.第3回 技術委員会審議       |                                                                                     |

共同研究の実施の過程では、**技術委員会の指導・助言のもと**に新技術の実用化と普及のための研究を行ないます。

### 3. 研究方法と手順

本研究では共同研究体が有する**先行事例を収集・整理**し、**地方公共団体へのアンケート調査結果**を反映、**業務項目を類型化**し、**統括的な管理業務のあり方を明確化**したうえで、地方公共団体での検討の際に**必要となる設定手法の考え方および留意事項**について整理する。

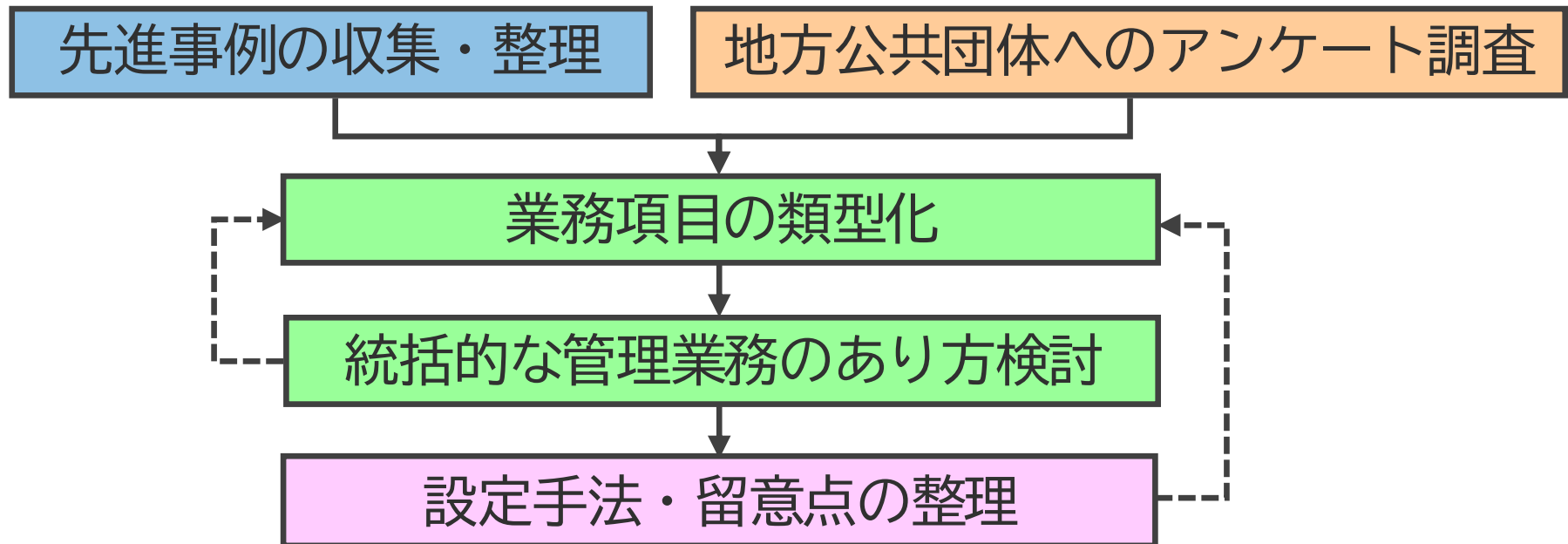


図2－1 研究手順

# 4. 技術資料(案)の説明

## 全体構成

### 第1章 総則

#### 第1節 研究の目的

##### § 1 統括的な管理業務に向けて

#### 第2節 研究の適用範囲

##### § 2 研究の適用範囲

#### 第3節 用語の定義

##### § 3 用語の定義

### 第2章 下水道事業における官民連携方式

#### 第1節 官民連携方式の整理

##### § 4 官民連携方式の概要

#### 第2節 官民連携事業での統括的な管理業務の概要

##### § 5 統括的な管理業務の必要性

### 第3章 統括的な管理業務の事例整理

#### 第1節 統括的な管理業務の設定事例

##### § 6 下水道事業における設定事例

##### § 7 下水道事業以外における設定事例

#### 第2節 設定事例における特徴

##### § 8 実施内容に応じた特徴

##### § 9 設定事例における特徴

#### 第3節 統括的な管理業務内容の現状把握

##### § 10 業務の類型化

##### § 11 業務内容に応じた特徴

##### § 12 民間事業者側が抱える課題

### 第4章 業務内容の整理

#### 第1節 地方公共団体へのアンケート調査

##### § 13 アンケート調査の実施

##### § 14 アンケート調査結果

#### 第2節 統括的な管理業務の業務内容のまとめ

##### § 15 業務項目の整理

##### § 16 業務項目の明文化

### 第5章 統括的な管理業務の導入効果・留意事項

#### 第1節 導入効果・留意事項

##### § 17 導入効果

##### § 18 留意事項

#### 第2節 地方公共団体の状況に応じた設定方法

##### § 19 業務項目の設定

##### § 20 実施体制

##### § 21 費用の考え方

#### 第3節 その他留意事項

##### § 22 広域型・分野横断型の官民連携事業において留意すべき事項

### 資 料 編

#### 1. 先進事例の概要

#### 2. 地方公共団体へのアンケート調査の結果概要

#### 3. 統括的な管理業務設定のケーススタディ

#### 4. 問い合わせ先

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第1章 総則】

### § 2 研究の適用範囲

本技術資料は、主に下水道施設を対象とした包括的民間委託および「水の官民連携」(管理・更新一体マネジメント方式【レベル3.5】、更新支援型)の業務を適用範囲として想定する。

(1)統括的な管理業務が導入されている事例整理

(2)統括的な管理業務の業務内容の整理

(3)統括的な管理業務の導入の際に留意すべき事項

・上記の整理内容を踏まえ、導入の際に留意すべき事項として統括的な管理業務の導入時の効果や影響および、統括的な管理業務の導入時の考え方についても記載。

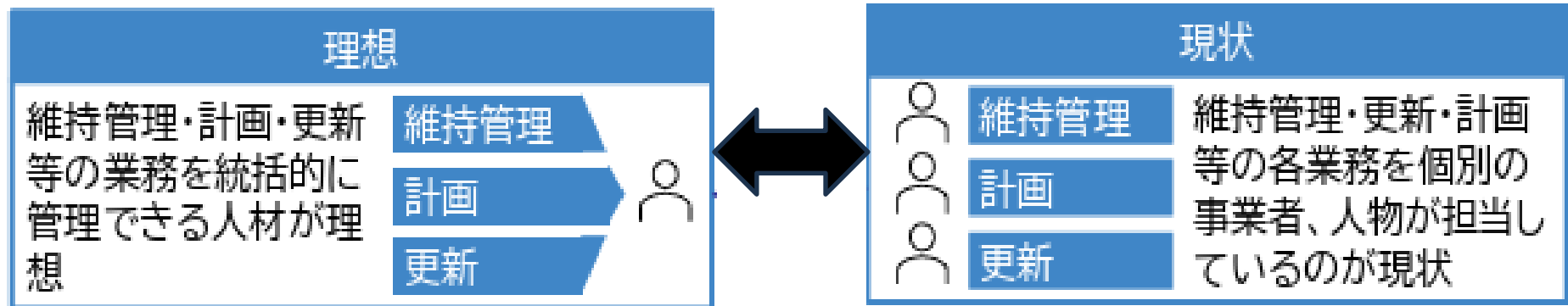
・資料編として共同研究体の業務実績から、数パターンの事業規模における業務量をケーススタディとして取りまとめた。しかしながら、当該業務の費用は、地方公共団体の執行体制や官民の競争的対話も踏まえて業務内容を明確化するとともに、見積を取るなどして、適切に計上する必要がある。

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第2章 下水道事業における官民連携方式】

### §5 統括的な管理業務の必要性

多岐にわたる業務が含まれる官民連携事業を適正かつ効率的に運営していくうえでは、複数業務の事業者間調整や各種業務を一体的に取りまとめる等、統括的な管理業務が重要である。



業務範囲全ての知見等を有する人材の確保が困難となる場合には、複数体制により「統括的な管理業務」を実施することも必要となる。

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第3章 統括的な管理業務の事例整理】

### §6 下水道事業における設定事例

本研究における導入事例は、本共同研究体における民間事業者が地方公共団体から受託している下水道事業の官民連携事業(包括的民間委託, 管理・更新一体マネジメント方式(レベル3.5))を対象とする。統括的な管理業務における特徴等を抽出するために、以下の内容について整理を行う。

統括的な管理業務の概要について整理した。  
(全33事例)

- ・仕様書への記載の有無
- ・実施主体
- ・執行体制
- ・常駐の有無
- ・費用化の有無

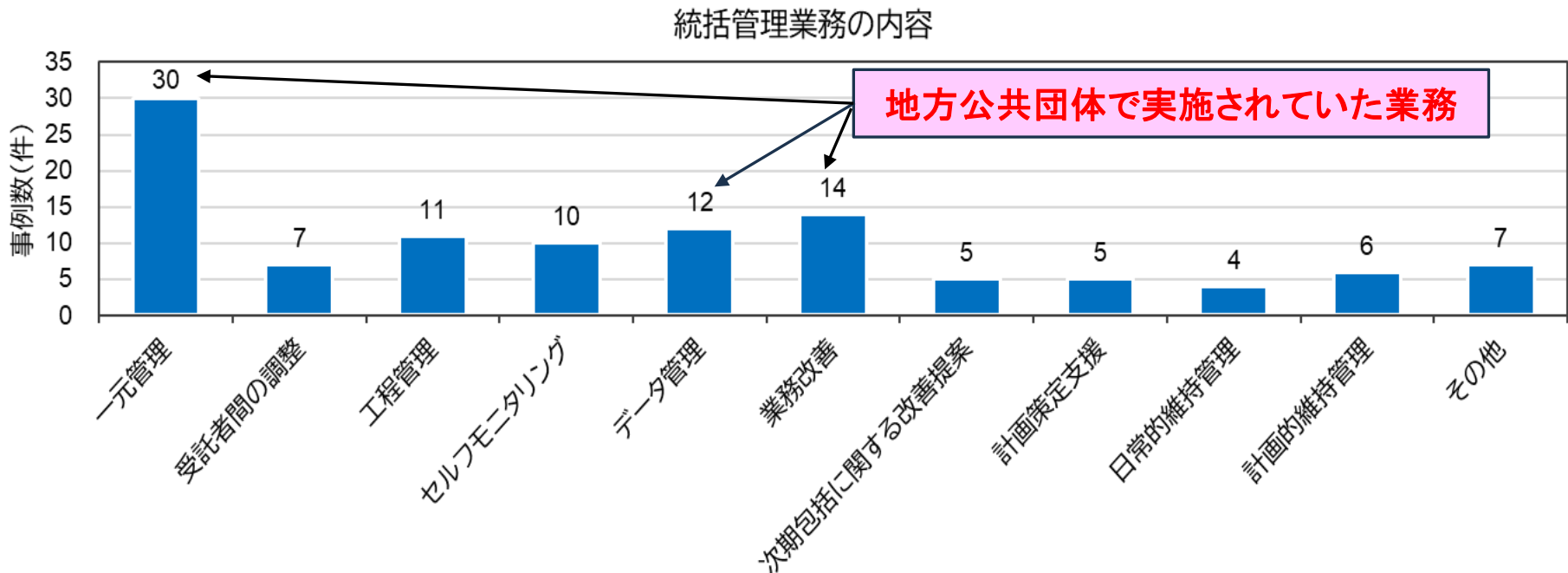
|      | 統括管理業務  |      |         |       |        |
|------|---------|------|---------|-------|--------|
|      | 仕様書への記載 | 実施主体 | 執行体制(名) | 常駐の有無 | 費用化の有無 |
| 都市1  | 全て有     | JV   | 2       | 有     | 有      |
| 都市2  | 全て有     | JV   | 1       | 有     | 無      |
| 都市3  | 一部有     | JV   | 1       | 有     | 有      |
| 都市4  | 一部有     | JV   | 0.1     | 無     | 有      |
| 都市5  | 全て有     | JV   | 2       | 有     | 有      |
| 都市6  | 無       | 単独企業 | 1.5     | 無     | 無      |
| 都市7  | 全て有     | JV   | 2       | 無     | 有      |
| 都市8  | 全て有     | JV   | 3       | 無     | 有      |
| 都市9  | 全て有     | JV   | 3       | 無     | 有      |
| 都市10 | 全て有     | JV   | 1.5     | 有     | 有      |
| 都市11 | 全て有     | 単独企業 | 1       | 有     | 有      |
| 都市12 | 全て有     | JV   | 1       | 有     | 有      |
| 都市13 | 全て有     | JV   | 0.5     | 無     | 有      |
| 都市14 | 全て有     | JV   | 1       | 有     | 有      |
| 都市15 | 全て有     | JV   | 1       | 有     | 有      |
| 都市16 | 一部有     | JV   | 1       | 有     | 無      |
| 都市17 | 全て有     | JV   | 1       | 有     | 有      |

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第3章 統括的な管理業務の事例整理】

### § 10 業務の類型化

各官民連携事業において実施されている統括的な管理業務の内容について、整理するとともに、類型化を実施した。統括的な管理業務は、それぞれの事業特性に応じて多岐にわたる項目内容が含まれているものの、業務の一元管理など、従来、地方公共団体で実施されていた業務項目を含めたものが多い。



# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第4章 業務内容の整理】

### § 13 アンケート調査の実施

官民連携事業における統括的な管理業務の必要性や業務内容など、下水道管理者である地方公共団体の統括的な管理業務の認識を把握することを目的として、全国の下水道事業を実施している団体に対してアンケート調査を実施した。

実施時期】10月20日(月)～11月7日(金)

【配布対象数】1,487団体(下水道事業に着手されている地方公共団体)

【収集回答数】856団体(回収率:57.6%)

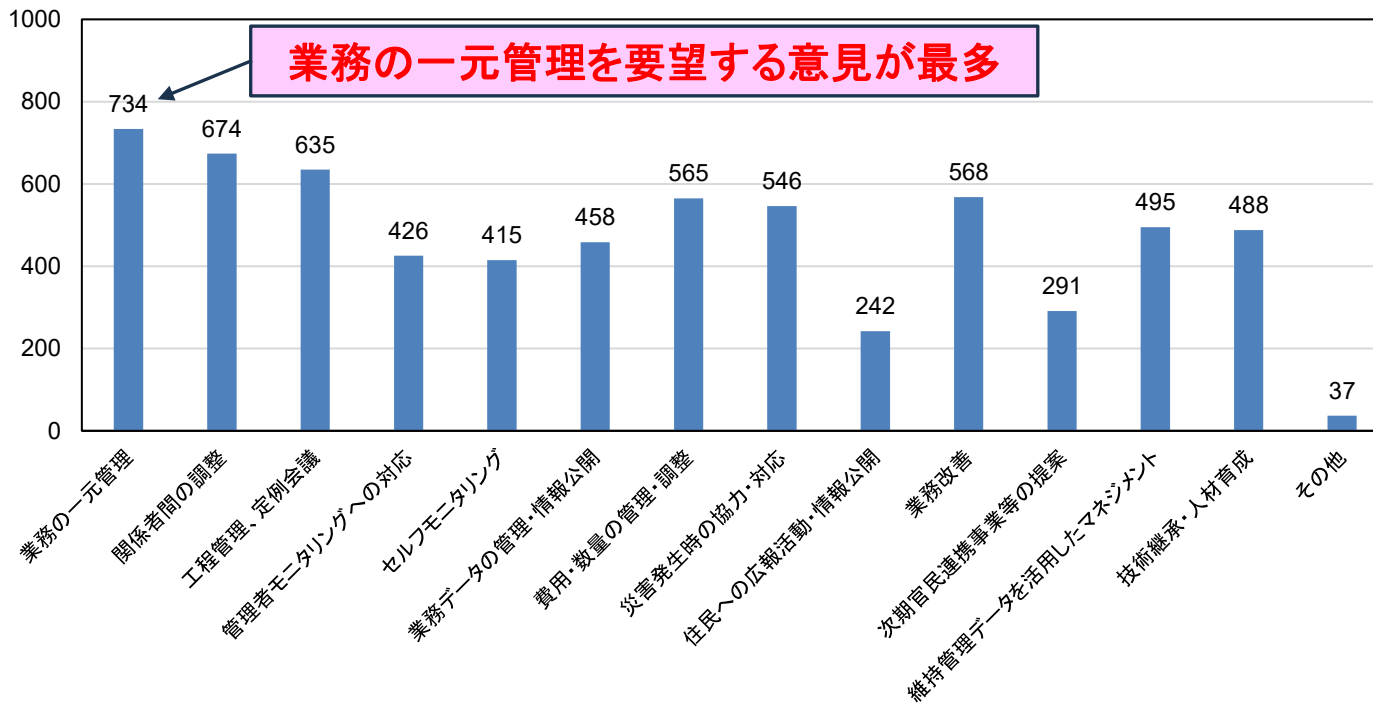
| 区分           | 配布数   | 回収数 | 回収率(%) |
|--------------|-------|-----|--------|
| 都道府県         | 42    | 26  | 61.9   |
| 50万人以上       | 27    | 19  | 70.4   |
| 30万人以上50万人未満 | 44    | 38  | 86.4   |
| 10万人以上30万人未満 | 184   | 126 | 68.5   |
| 5万人以上10万人未満  | 234   | 149 | 63.7   |
| 1万人以上5万人未満   | 618   | 338 | 54.7   |
| 1万人未満        | 338   | 160 | 47.3   |
| 合 計          | 1,487 | 856 | 57.6   |

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第4章 業務内容の整理】

### § 14 アンケート調査結果

アンケート調査のデータを集計し、全国の下水道事業実施団体における官民連携事業に対する取組状況や統括的な管理業務の認識等の状況について整理した。



地方公共団体へのアンケート調査においても、統括管理業務に必要な業務項目は、§ 10と同様に「業務の一元管理」を要望する意見が最多となった。

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第4章 業務内容の整理】

### § 15 業務項目の整理

§ 10で整理した業務類型を踏まえ、先進事例の実施内容から統括的な管理業務として実施すべきと考える業務や、水の官民連携ガイドラインの記載内容を反映し、統括的な管理業務として実施することが適切と考えられる業務項目を整理した。

#### (1) 業務全体に係るマネジメントに関する業務項目

| 項目  |             | 概要  |                       |
|-----|-------------|-----|-----------------------|
| 1-1 | 一元管理        | (1) | 一元的な業務管理              |
|     |             | (2) | 官公庁との協議及び関係法令等に基づく手続き |
| 1-2 | 関係者間調整      | (1) | 各種会議の開催(発注者向け, JV企業間) |
|     |             | (2) | 受託者間の調整及び書類のとりまとめ     |
| 1-3 | 工程管理        | (1) | 業務計画                  |
|     |             | (2) | 定例会議                  |
| 1-4 | 管理者の履行確認の対応 | (1) | 履行確認の対応               |
|     |             | (2) | 検査対応                  |
|     |             | (3) | 提案事項への対応              |

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第4章 業務内容の整理】

### (1) 業務全体に係るマネジメントに関する業務項目

| 項目  |                 | 概要  |                     |
|-----|-----------------|-----|---------------------|
| 1-5 | セルフモニタリング       | (1) | 実施計画書の作成            |
|     |                 | (2) | 報告書の作成              |
|     |                 | (3) | 継続的改善               |
| 1-6 | 業務データ管理・情報公開    | (1) | 実施業務のデータ集約, 情報の整理   |
|     |                 | (2) | 維持管理作業, 情報公開資料の作成補助 |
| 1-7 | 事業管理            | (1) | 予算・実施費用等の管理         |
|     |                 | (2) | 業務間での数量・予算の調整等      |
|     |                 | (3) | インフレスライド, 契約見直し対応   |
| 1-8 | 災害対応            | (1) | 災害対応の全体調整           |
|     |                 | (2) | 災害時維持修繕協定の締結の支援     |
|     |                 | (3) | BCP訓練の対応            |
| 1-9 | 住民への広報, 活動・情報公開 | (1) | 市催事イベント等への広報活動      |
|     |                 | (2) | 住民への周知文書等の作成・配布     |

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第4章 業務内容の整理】

### (2) 事業・サービス向上に資するマネジメントに関する業務項目

| 項目  |             | 概要  |                           |
|-----|-------------|-----|---------------------------|
| 2-1 | 業務改善        | (1) | 実施結果の分析と課題整理, 課題についての改善提案 |
|     |             | (2) | 品質向上, コスト削減, 住民サービス向上への取組 |
| 2-2 | 新たな社会要請への対応 | (1) | 中長期的な事業マネジメントの提案          |
|     |             | (2) | 次期, 官民連携事業に向けた提案          |
| 2-3 | 事業マネジメントの実践 | (1) | 事業マネジメント計画案の作成            |
|     |             | (2) | 効率的なデータ管理手法の提案・導入         |
| 2-4 | 技術継承, 人材育成  | (1) | マニュアル作成, 勉強会, 人材育成        |
|     |             | (2) | 人材確保による執行体制の確保            |

## 技術資料【第4章 業務内容の整理】

### § 16 業務項目の明文化

統括的な管理業務の「業務全体に係るマネジメント」と「事業・サービス向上に資するマネジメント」の業務項目について、詳細な内容を明文化した。これらは、地方公共団体が公募資料(要求水準書や特記仕様書等)を作成する際に活用いただきたい。

| 一元管理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ア 一元的な業務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>契約書、要求水準書、完成図書その他の関係書類により、本業務の目的、内容を十分に理解したうえで、施設の機能および受託業務の履行状況を把握すること。</li> <li>本業務の実施にあたり、現場で生じる各種課題や委託者からの要望に対し、迅速かつ適切な意思決定を可能とする体制を構築すること。</li> <li>本業務の遂行にあたり必要となるリスク管理、法務・労務管理、各種事務作業、引継ぎについては、各業務の主任技術者と連携し、関係法令等を遵守し、様式等を定めたうえで、一元的にとりまとめて対応すること。</li> <li>本業務の実施状況を踏まえた更新計画案については、各業務の主任技術者と連携および調整を行うこと。</li> </ul> | <p>イ 官公庁との協議及び関係法令等に基づく手続き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受託者が行うべき関係官公庁及び関係機関への届出等(各業務において実施するものは除く。)を、関係法令等の定めるところにより行うこと。また、届出等に先立ち、その内容を事前に委託者に報告すること。</li> <li>本業務の実施にあたり、委託者が関係官公庁及び関係機関への届出等を必要とする場合(各業務において実施するものは除く。)、受託者は、委託者が行う届出等の作成及び手続き等について協力すること。</li> <li>関係官公庁等との協議を必要とするとき、又は協議を受けたときは、誠意をもってこれに当たり、この内容を遅滞なく委託者に報告すること。</li> </ul> |

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【第5章 導入効果・留意事項】

### § 17 導入効果

下水道事業で官民連携事業を実施する際に統括的な管理業務を導入することで期待される効果について整理した。

| 業務全体に係るマネジメント業務                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 事業・サービスの向上に資するマネジメント                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>業務効率化と負担軽減</b><br/>一元的な業務管理による情報共有および方針決定の迅速化により、官民双方の調整負担を軽減し、業務全体の効率化を図る。</p> <p><b>リスク管理と透明性の確保</b><br/>業務全体の透明性を確保することにより、官民双方の課題を早期に把握し、解決策を提示することでリスクの最小化を図る。</p> <p><b>データ活用</b><br/>維持管理データを反映した更新計画案の作成とともに、平常時および被災時の災害対応においても、同データを活用した効率的な復旧計画の策定および住民への情報公開を実現し、住民信頼および事業サービスの向上を図る。</p> | <p><b>DCAPによる業務品質の向上</b><br/>DCAPサイクルを活用し、業務プロセスの見直しと業務改善を推進することにより、官民連携事業全体の効率化と業務品質の向上を図る。</p> <p><b>経営視点での最適化</b><br/>新たな社会要請への対応や事業マネジメント計画案作成により、中長期的な経営視点による施策優先度の設定や事業の最適化を図る。</p> <p><b>持続可能性の確保</b><br/>民間ノウハウを活用した人材育成や地域企業との技術継承および技術移管を促進し、安定的なインフラの持続可能性を確保する。</p> |

## 4. 技術資料(案)の説明

### 技術資料【第5章 導入効果・留意事項】

#### § 20 実施体制

統括的な管理業務の導入は、以下に示す事項について検討し、競争的対話や個別対話を通じて、官民双方が抱える課題等に応じた内容で柔軟に選択・採用していくことが重要である。

##### (1) 統括的な管理業務を担う「技術者レベル」

技術者レベルの設定には各業務のレベルや業務区分により判断が必要となり、業務の内容に応じて、業務レベルや業務区分は大きく変わることになるため、各地方公共団体の課題や実情を踏まえて独自に検討、設定することが必要であることに留意されたい。

##### (2) 統括的な管理業務を実施するうえでの「形態」

統括的な管理業務の責任者は、「すべての対象施設・業務範囲等に知見等を持つような人材」が望ましいが、希少な人材であり、確保が困難であることから、**「1名での業務実施ではなく、グループとして連携した形態で実施能力を確保することが現実的である」ことを記載**

##### (3) 専属・専任の考え方「配置要件」

必要十分な情報開示に基づく官民対話又は競争的対話の繰り返しを踏まえ、管理者の適切な判断により設定する。

## 4. 技術資料(案)の説明

### 技術資料【第5章 導入効果・留意事項】

#### § 21 費用の考え方

統括的な管理業務には、定型・非定型に関わらず明確な「積算基準」は存在しないため、業務内容に応じて必要な人工(工数)を設定したうえで、業務のレベルに応じた技術者単価を乗じることで、必要な費用を求めることが考えられる。

業務内容に応じて必要な人工(工数)を設定したうえで、業務の質(難易度)に応じた技術者単価を乗じて直接業務費を求める必要がある。

本技術資料にとりまとめた統括的な管理業務項目は、一般的な役務業務と異なり、管理・運営・計画・調整等の高度な業務レベルの内容が主であるが、採用する技術者単価は、事業の難易度や対象とする業務項目に応じ、個別対話を通じて設定し、直接業務費を算出する必要がある。

## 4. 技術資料(案)の説明

### 技術資料【第5章 導入効果・留意事項】

#### § 22 広域型・分野横断型の官民連携事業において留意すべき事項

中規模の下水道事業においては、統括管理業務も含めた事業の採算性や民間企業の参入意欲の確保を念頭に、事業規模を確保するため、広域型・分野横断型の官民連携事業の導入を検討することも考えられる。

水の官民連携ガイドラインにおいて有効な選択肢の一つとして示されている広域型や分野横断型の官民連携事業は、事業規模の拡大によるスケールメリットを創出し、民間事業者の参画意欲の向上や人材体制の強化、業務の効率化およびコスト縮減に加え、民間の創意工夫が発揮される余地が広がるといった多面的な効果が期待できる解決策である。

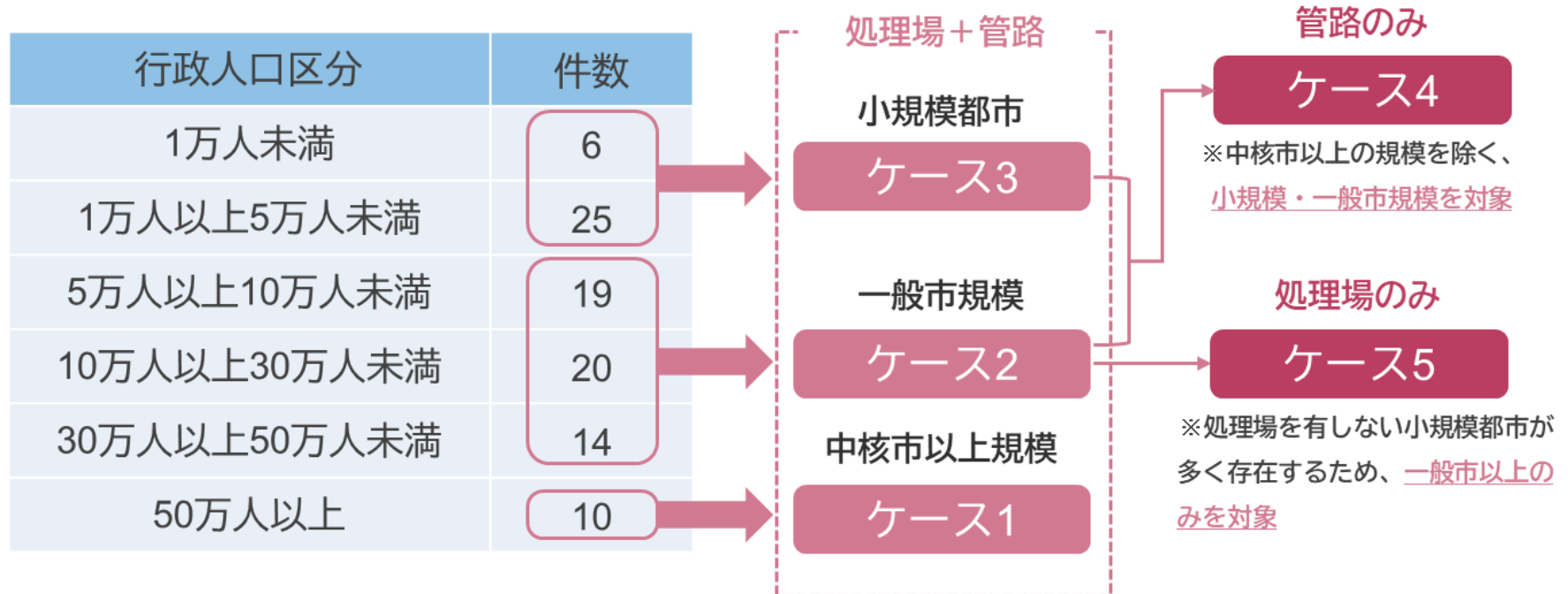
その一方で、対象となる業務範囲が拡大することは必然的に業務の複雑性を増大させる要因ともなり得るため、統括的な管理業務における一元管理の難易度が高まるとともに、管理に要するコストが上昇する可能性については十分に留意する必要がある。

# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【資料編 ケーススタディの説明】

### (1) 複数ケースの設定

複数のケースは、ウォーターPPPで原則とされている「処理場＋管路一体のパターン」を行政人口規模別に3ケース，流域関連公共下水道を想定した「管路のみのパターン」を1ケース、一般市以上の「処理場のみのパターン」を対象とした1ケースとして、全5ケースを設定した。



## 4. 技術資料(案)の説明

### 技術資料【資料編 ケーススタディの説明】

#### (2) ケーススタディでの設定項目

ケーススタディでは、各業務項目の実施頻度(最大)、実績等から想定される人工、最大実施頻度の明示に加えて、複数人での業務実施を想定した主担当者、副担当者、補助担当者の内訳も示す。

#### (3) ケーススタディを検討する際の各業務の関連性

ケーススタディの基礎情報となるよう、10年間のウォーターPPP(レベル3.5:更新支援型)を想定した場合の、全体の実施工程・スケジュール案を示す。

#### (4) ケーススタディの作成

各業務の実施頻度や人工については、本編に記載された業務項目における必要最小限の内容を積み上げて設定したものである。その他、以下の留意事項を踏まえつつ、具体的に統括的な管理業務を設定する際には、官民対話又は競争的対話を繰り返し、双方における認識をすり合わせておくことが必要である。

- 1) 設定数値に対する留意事項
- 2) 業務内容に対する留意事項
- 3) 経費に関する留意事項
- 4) 人工設定に関する留意事項

# 4. 技術資料(案)の説明

Japan Institute of Wastewater Engineering and Technology

## 技術資料【資料編 ケーススタディの説明】

### 全体工程(想定案)

| 業務項目 |                             | 1年目                          | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 6年目 | 7年目 | 8年目 | 9年目 | 10年目 |
|------|-----------------------------|------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 2-1  | 業務改善                        | (1) 実施結果の分析と課題整理、課題についての改善提案 |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
|      | (2) 品質向上、コスト削減、住民サービス向上への取組 |                              |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
| 2-2  | 新たな社会要請への対応                 | (1) 中長期的な事業マネジメントの提案         |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
|      | (2) 次期、官民連携事業に向けた提案         |                              |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
| 2-3  | 事業マネジメントの実践                 | (1) 事業マネジメント計画案の作成           |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
|      | (2) 効率的なデータ管理手法の提案・導入       |                              |     |     |     |     |     |     |     |     |      |

↓ 詳細分類

| 業務項目 |                           | 4月                       | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|---------------------------|--------------------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 1-1  | 一元管理                      | (1) 一元的な業務管理             |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 官公庁との協議及び関係法令等に基づく手続き |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-2  | 関係者間調整                    | (1) 各種会議の開催（発注者向け、JV企業間） |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 関係機関との調整及び書類のとりまとめ    |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-3  | 工程管理                      | (1) 業務計画                 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 定例会議                  |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-4  | 管理者の履行確認の対応               | (1) 履行確認の対応              |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 検査対応                  |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-5  | セルフモニタリング                 | (1) 実施計画書の作成             |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 報告書の作成                |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-6  | 業務データ管理・情報公開              | (1) 実施業務のデータ集約、情報の整理     |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 維持管理作業、工事情報の公開        |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-7  | 事業管理                      | (1) 予算・実施費用等の管理          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 業務間での数量・予算の調整等        |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-8  | 災害対応                      | (1) 災害対応の全体調整            |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 災害時維持修繕協定の締結の支援       |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 1-9  | 住民への積極的な広報活動              | (1) 市催事イベント等への広報活動       |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 住民への周知文書等の作成・配布       |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 2-4  | 技術継承、人材育成                 | (1) マニュアル作成、勉強会、人材育成     |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|      | (2) 人材確保による執行体制の確保        |                          |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |

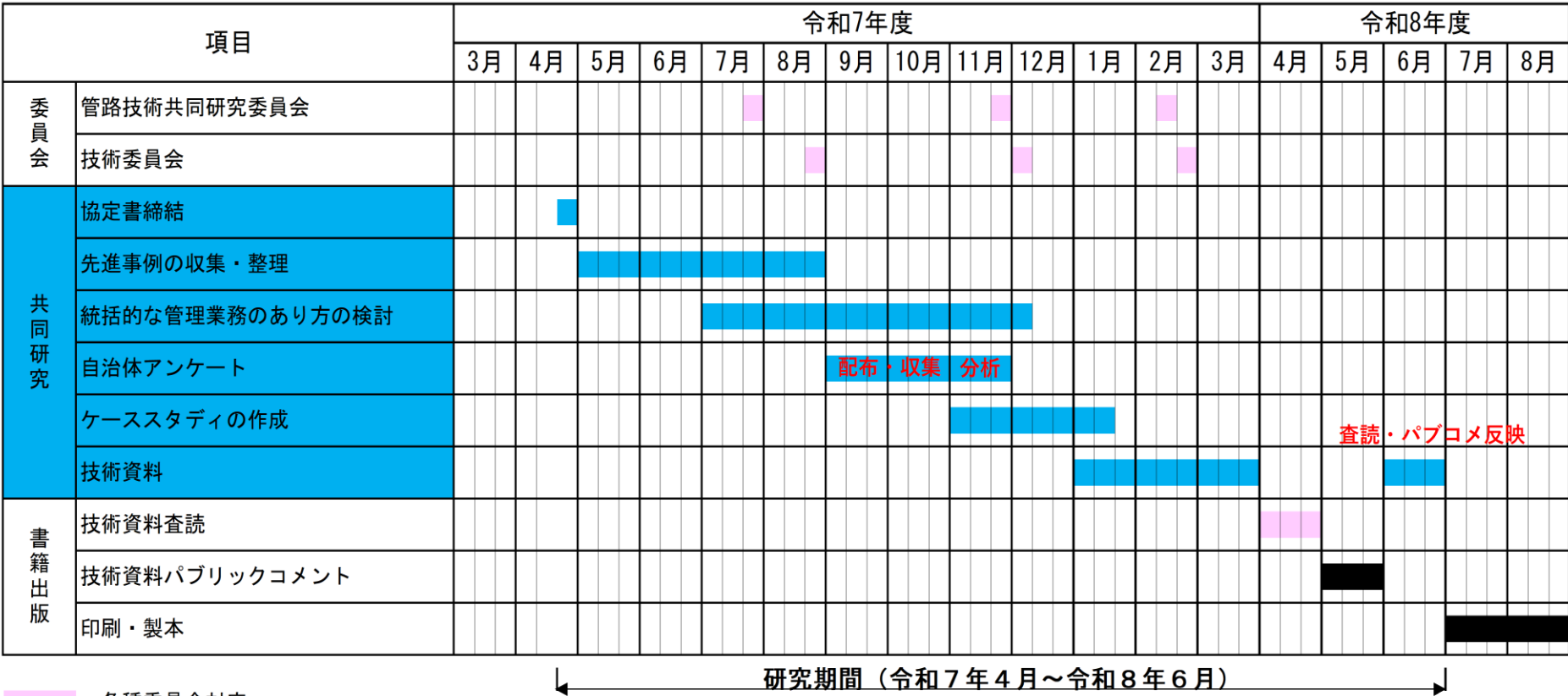
# 4. 技術資料(案)の説明

## 技術資料【資料編 ケーススタディの説明】

表(参)-6 ケーススタディまとめ

|                                              | ケース1    | ケース2   | ケース3   | ケース4 | ケース5   |
|----------------------------------------------|---------|--------|--------|------|--------|
| 経過年数(年)                                      | 50      | 45     | 30     | 45   | 30     |
| 処理人口(万人)                                     | 40      | 10.5   | 2      | 13   | 10.5   |
| 対象施設(処理場1箇所)                                 | 処理場＋管路  | 処理場＋管路 | 処理場＋管路 | 管路のみ | 処理場のみ  |
| 処理能力(m <sup>3</sup> /日)                      | 200,000 | 65,000 | 5,000  | —    | 35,000 |
| 管路延長(km)                                     | 1,000   | 450    | 80     | 500  | —      |
| 業務全体に係る<br>マネジメント業務<br>(年間最大人工)              | 388     | 274    | 144    | 168  | 153    |
| 事業・サービスの向上に<br>資するマネジメント業務<br>(期間中最大となる際の人工) | 140     | 126    | 96     | 74   | 66     |
| 合 計                                          | 528     | 400    | 240    | 242  | 219    |

共同研究全体スケジュール



- 各種委員会対応
- 共同研究体対応
- 発刊作業

【今後の予定】

- ・技術資料査読：4/13～4/24
- ・パブリックコメント：5/18～5/29
- ・印刷・製本：下水道展での発表に向け7月末を目標に発刊作業

- ・先行事例および地方公共団体へのアンケート調査結果を踏まえて、業務項目を類型化、統括的な管理業務のあり方を明確化した。
- ・地方公共団体の検討の際に必要となる設定手法の考え方および留意事項についても整理した。なお、統括的な管理業務を適正かつ効率的に実施するためには、事業スキームに応じた適切な設定が重要であり、官民での認識の齟齬が生じない様に調査時や実施方針・要求水準書の公表時等、官民対話や競争的対話のタイミングで認識を擦り合わせる必要がある。
- ・本研究成果は、令和8年7月に技術資料として発刊を予定しており、各地方公共団体における統括的な管理業務の検討に活用されることを期待する。

※現在、発刊作業中であることから、本資料の取り扱いに留意されたい。

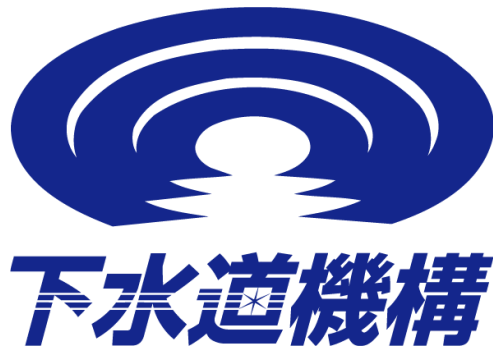
# データベース利用のご案内



地方公共団体・出捐団体・賛助会員の方は、HPの会員登録（無料）を行うことで、技術マニュアルや審査証明の報告書等を全文閲覧・ダウンロードすることができます。なお、上記会員以外の方や製本版をお求めの方は、実費がかかるのでお問い合わせください。



ご清聴ありがとうございました。



(公財) 日本下水道新技術機構

住所 〒162-0811

東京都新宿区水道町3番 1 号

TEL 03-5228-6511 (代表)

URL [http : //www.jiwet.or.jp/](http://www.jiwet.or.jp/)

TEL 03-5228-6598 (研究第2部)